別紙３

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究

研究分担者　西　大輔（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野　教授）

研究要旨
3年計画の最終年度の令和6年度は、①Emergency Medical Information System (EMIS)およびメーリングリストを利用した調査を継続する、令和6年能登半島地震の派遣活動のメンタルヘルスの関連要因を明らかにする、②研修の内容に実施した当分担班の研究成果を活用する、③「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」の普及を継続することの、3つの目的を達成することができ、3年計画の目的は概ね達成することができた。3年間の目的の1つである新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを組み込むことは1年目に実施をしたが、各研修の準備等の調査のための準備に大きな労力が必要であるのに対して回答率が低く、研修時調査によるメンタルヘルスのチェックの継続は現状では困難であり、EMISによる調査とメンタルヘルスのチェックを継続する方法が有用であると考えられた。当分担班として、2つの推奨事項を現場の医療救援者の方々に広く普及をできた点、研修の内容に実施した当分担班の研究成果を活用できた点、令和6年能登半島地震のDMATの活動終了後に調査を実施し活動中・活動後のメンタルヘルスの関連要因を明らかできた点は重要な研究成果である。

研究協力者：
河嶌　譲（国立病院機構本部DMAT事務局）
池田　美樹（桜美林大学リベラルアーツ学群　准教授）
宮本　有紀（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神看護学分野　准教授）
浅岡　紘季（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野　助教）

Ａ．研究目的

当分担班では、3年間の目的として、新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを組み込む、Disaster Medical Assistance Team (DMAT：災害派遣医療チーム)・Disaster Psychiatric Assistance Team (DPAT：災害派遣精神医療チーム)隊員のメンタルヘルスの関連要因をさらに検討する、「医療救援者の個人へのメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を完成させて普及することを目的としている。

令和6年度は、下記①-③を目的とした。

① Emergency Medical Information System (EMIS)およびメーリングリストを利用した調査を継続する。令和6年能登半島地震の派遣活動のメンタルヘルスの関連要因を明らかにする。
② 研修の内容に実施した当分担班の研究成果を活用する。
③ 「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」の普及を継続する。

Ｂ．研究方法

①DMAT全隊員を対象に、年1回の定期的な調査および令和6年能登半島地震の活動度の追跡調査として、2024年11月19日～12月20日に、EMISを用いての第8回目のオンライン調査を実施した。令和6年能登半島地震の概ねの活動が終了した後の2024年3月日8～3月31日に実施した第7回調査結果を用いて、令和6年能登半島地震の派遣活動のメンタルヘルスの関連要因を検討した。

②DMATのメンタルヘルスに関する研修の担当者と当分担班の研究成果の活用方法を検討した。

③研究代表者、研究分担者、DMAT事務局の先生方、DMATの隊員研修の担当者、現場にて活躍する医療救援者等と議論を行い、今年度に実施可能な2つの推奨事項の実装や普及の方法を検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会(2019164NI)、および国立病院機構災害医療センター倫理委員会(2019-19)より承認を得て実施された。研究参加への同意(インフォームドコンセント)は、オンラインにて研究の説明文書を明示し、同意書にご回答をいただく方法にて、同意を得た。

Ｃ．研究結果

①14,099名に研究参加依頼を配信し、691名より回答が得られ、回答率は4.9%であった。メンタルヘルスの指標の1つであるK6が13点以上の方は15名であった。

令和6年能登半島地震の派遣活動のメンタルヘルスの関連要因の検討として、第7回調査の参加者1,085名を解析対象とした重回帰分析の結果、「現場の悲惨な状況に圧倒され精神的苦痛があった」はK6(B=0.61, P=0.01)、「活動中の救援者同士の意見の不一致や対立の経験」はPTSD Checklist for DSM-5 (PCL-5) (B=1.70, P<0.01)、およびK6(B=0.51, P=0.01)、Peritraumatic Distress Inventory (PDI) はPCL-5(B=0.65, P<0.01)およびK6(B=0.33, P<0.01)と有意な関連を示した。本研究成果は現在論文投稿中である。

②令和5年度に「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を研修内容に加えていただいており、今年度はDMATのメンタ

ルヘルスに関する研修の担当者と検討し、これまでの当分担班の国際学術誌に掲載された論文等の研究成果を追加いただいた。

③令和5年度より実施しているDMAT研修における普及などに加えて、第30回日本災害医学会総会・学術集会の「災害時・災害後の支援者支援」のシンポジウムにおいて、シンポジストとして2つの推奨事項を発表し、普及を行った。

D．考察

①第7回調査よりも回答率が低い結果であったが予定通りに第8回調査を実施することができた。これらの結果からの研究成果の報告を進めていく。

第7回調査の結果より、令和6年能登半島地震の派遣活動のメンタルヘルスの関連要因を明らかにし、被害が深刻な激甚災害等の救援活動の経験、活動中の救援者の意見の不一致や対立の経験をした医療救援者へのメンタルヘルスの支援等の対策の必要性を示した。

②DMATのメンタルヘルスに関する研修の担当者と協同し、令和5年度に追加した内容に加えて、当分担班の研究成果を研修に更に追加することができ、当分担班の研究成果を現場に活用することができたと考えられる。

③令和5年度から実施している普及方法に加えて、今年度も関係者が多く集まる第30回日本災害医学会総会・学術集会のシンポジウムにおいて普及をすることができた。

E．結論

3年計画の最終年度の令和6年度は、3つの目的を達成することができ、3年計画の目的は概ね達成することができた。3年間の目的の1つである新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを組み込むことは1年目に実施をしたが、各研修の準備等の調査のための準備に大きな労力が必要であるのに対して回答率が低く、研修時調査によるメンタルヘルスのチェックの継続は現状では困難であり、EMISによる調査とメンタルヘルスのチェックを継続する方法が有用であると考えられた。当分担班として、2つの推奨事項を現場の医療救援者の方々に広く普及をできた点、研修の内容に実施した当分担班の研究成果を活用できた点、令和6年能登半島地震のDMATの活動終了後に調査を実施し活動中・活動後のメンタルヘルスの関連要因を明らかできた点は重要な研究成果である。

F．健康危険情報

特記事項なし。

G．研究発表

1．論文発表

1) Asaoka H, Watanabe K, Miyamoto Y, Restrepo-Henao A, van der Ven E, et.al., Nishi D, HEROES group. Association of depressive symptoms with incidence and mortality rates of COVID-19 over 2 years among healthcare workers in 20 countries: multi-country serial Urban upbringing. BMC Med. 2024 Sep 12;22(1):386.

2) 浅岡紘季, 小井土雄一, 河嶌譲, 池田美樹, 宮本有紀, 西大輔. 医療従事者における心理的応急処置とトラウマインフォームドケア. トラウマティック・ストレス, 2024; 22(1), 39-47.

2．学会発表

1) 浅岡紘季, 小井土雄一, 河嶌譲, 池田美樹, 宮本有紀, 西大輔. シンポジウム 災害時・災害後の支援者支援：令和6年度能登半島地震における医療救援者の救助活動の経験と心的外傷後ストレス症状および心理的苦痛の関連. 第30回日本災害医学会. 2025.

2) 浅岡紘季, 小井土雄一, 河嶌譲, 池田美樹, 宮本有紀, 西大輔. シンポジウム トラウマインフォームドケアの普及に向けて:医療従事者におけるPsychological First Aid（心理的応急処置)研修の受講経験とトラウマインフォームドケアに対する態度の関連. 第23回日本トラウマティック・ストレス学会. 2024.

3) 浅岡紘季, 佐々木那津, 小井土雄一, 河嶌譲, 池田美樹, 宮本有紀, 西大輔. Professional Fulfillment Index日本語版の信頼性と妥当性の検証. 第97回日本産業衛生学会. 2024.

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし。

2．実用新案登録

なし。

3．その他

特記事項なし。

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Asaoka H, Watanabe K, Miyamoto Y, Restrepo-Henao A, van der Ven E, et.al., Nishi D; HEROES group	Association of depressive symptoms with incidence and mortality rates of COVID-19 over 2 years among healthcare workers in 20 countries: multi-country serial Urban upbringing	BMC Med.	22(1)	386	2024
浅岡紘季, 小井土雄一, 河嶌讓, 池田美樹, 宮本有紀, 西大輔.	医療従事者における心理的応急処置とトラウマインフォームドケア.	トラウマティック・ストレス	22(1)	39-47	2024